

令和6年度第1回刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

- 1 日 時 令和6年8月1日（木）
 午前10時00分～午前12時00分
- 2 場 所 刈谷市役所1階101会議室A・B
- 3 委員（敬称略）

【出席者】

	団体等名	役職等名	氏名	備考
1	愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
2	自治連合会	会長	深谷 光秀	
3	刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	中村 祐子	
4	子育てネットワーク刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
5	北部地区社会福祉協議会	会長	山村 実	
6	南部地区社会福祉協議会	会長	羽谷 周治	会長職務代理者
7	中部地区社会福祉協議会	会長	面高 俊文	
8	刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	加藤 裕子	
9	刈谷市役所福祉健康部	部長	加藤 直樹	
10	刈谷市いきいきクラブ連合会	会長	早川 清巳	
11	刈谷市民ボランティア活動センター	センター長	米田 正寛	
12	刈谷市校長会	刈谷特別支援学校校長	薬丸 貴之	
13	市民公募		水谷 さわ子	

【欠席者】

	団体等名	役職等名	氏名	備考
1	刈谷市ボランティア連絡協議会	顧問	富田 宜弘	
2	刈谷市身体障害者福祉協会	会長	石川 恵美子	
3	刈谷市社会福祉協議会	会長	杉浦 芳一	
4	刈谷市子ども会連絡協議会	専務理事	永田 美登里	
5	市民公募		塚本 裕章	

【事務局】 ※参加者のみ

	団体等名	役職等名	氏名	備考
1	福祉健康部	政策監	杉浦 隆司	
2	福祉健康部 福祉総務課	課長	加藤 幹雄	
3	福祉健康部 福祉総務課	課長補佐	中村 智	
4	福祉健康部 福祉総務課 総務係	係長	川井 武	
5	福祉健康部 福祉総務課 総務係	主任主査	清水 景子	
6	福祉健康部 生活福祉課 生活支援係	係長	岡田 真茂	
7	社会福祉協議会 事務局	事務局長	岩見 真人	
8	社会福祉協議会 総務課	課長	加藤 謙司	
9	社会福祉協議会 総務課	課長補佐兼総務 係長	磯村 潤	
10	社会福祉協議会 総務課 人事係	主事	鮎澤 一樹	
11	社会福祉協議会 生活支援課	課長補佐	神谷 節子	

4 議題

(1) 第4次刈谷市地域福祉計画の事業取組状況等調査結果について

資料1 ～ 資料3

(2) 第5次刈谷市地域福祉計画の骨子案について 資料4

(3) その他

今後のスケジュールについて 資料5

5 意見・質疑等

【議題1】第4次刈谷市地域福祉計画の事業取組状況等調査結果について

※資料1～3について事務局より説明

○ 会長

ただいまの説明について、意見などはあるか。

○ 委員A

資料2の1ページ目の刈谷市民ボランティア活動センターについて、昨年度は17団体が（新たに）登録されたが、14団体が廃止したため実質3団体しか増加していない。廃止理由は担い手不足が多いことである。

センター運営開始当初は115団体登録されたが、新しい担い手が増えないうまま20年が経過し、団体内での高齢化も進行している。ただし、子育て支援団体など、時代に応じた団体も増えている。

次世代に繋げることが難しいという現状があるため、今年度から月2回、ボラっちカフェを開始し、団体同士で困りごとの共有や、スキル向上など、センターとして、他団体との連携の促進を行っている。これから頑張りたい。

○ 会長

団体数の増減については理解した。

○ 委員 B

老人クラブ（いきいきクラブ）も担い手及び新規会員がいない。全国的な数字から見ても、毎年1割ずつ減少し、いつ消滅するかという状況である。

老人クラブ（いきいきクラブ）に加入しなくても個人で好きなことが出来る時代であるため、今までのやり方を変えていく必要がある。

婦人会も子ども会も担い手が減っているため、お互いに協力して活動を進める必要がある。そのため、福祉委員会には頑張ってもらいたい。現状、社協が運営支援をしてくれているため、大変助かっている。

地区の担い手がいないため、ある程度行政の援助が必要である。全部とは言わないが、仕組みづくりなど、2、3割は手伝ってもらえるとありがたい。

○ 会長

2、3割の手伝いとは、具体的に何が必要か。

○ 委員 B

地区の役員等は70～80代のメンバーで運営をしており、パソコン操作などが特に弱い。現状、チラシなどを社協が作成してくれており、随分楽になっている。

○ 会長

会の運営、事務的な支援が必要ということか。

○ 委員 B

（地域の役などは）1～2年で満了となる場合が多いため、次につなげる（引き継ぐ）ノウハウもあり、ありがたい。

○ 会長

社協の役割の一つとして、現状のCSWの働きはどうなっているか。

○ 事務局

現状、地区社協及び福祉委員会の事務局としてお手伝いをしている。引き続き、このような活動は続けていきたい。CSWに関しては、今後、社協としてこういった取組ができるのか検討していきたい。

○ 会長

先の意見の「行政」が市か社協か、明確にするため質問した。

○ 委員C

第4次も残り半年。計画は行政だけでなく企業や団体にとっても方向を示すための大事な指標である。重要なのは、どういう項目で管理し、目標をどう設定し、計画がどのような効果を発揮するかということある。

第4次の目標設定を見ると、例えば目標1の担い手づくりについては、イベントへの参加人数が指標になっているが、人数よりも参加者のイベントに対する質を評価するような視点が必要である。また、ボランティア団体と協働した養成講座の実施回数が指標となっているが、参加者の満足度や評価、実効性をどう測るかという視点が必要ではないか。数字の足し算ではなく、質の面のレビューが必要である。

（目標2の）民生委員・児童委員の相談件数についても、件数のみでは、相談内容や対応方法・結果が読めない。

（目標3の）組織横断的な課題検討会の設置についても、具体的に、課題をいくつ設定し解決したのかが大事である。要支援者名簿についても、対象者（高齢者など）が増えれば登録者が増えるのは当然である。元気な高齢者が増えている中、きちんと抽出できているのかが疑問である。

目標設定の考え方については後ほど話をさせていただきたい。

○ 事務局

現状、アウトプットの・数値的な指標が多く、質や満足度を測る指標が少ない。意見を参考にし、新しい指標をつくっていきたい。

【議題 2】第 5 次刈谷市地域福祉計画の骨子案について

※資料 4 について事務局より説明

○ 会長

ただいまの説明についての意見、質問があるか。

○ 委員 B

P44 の「(8) 地域防災力の強化」について、災害時に支援が必要な人の対応について具体的に書かれているが、現在自分が直面している、各団体の担い手不足や団体の消滅の問題に対しても、このように何か具体的な対応をしてくれているのか。

子ども会なども激減しており、老人クラブ（いきいきクラブ）は数値的なデータから見ても、10 年持たないのではないか。また、団体の会議等は平日にあるため働いている人は参加できない。これらの問題への対応は、当事者だけでは限界があり、誰が考えていくのか。市として、これらの問題をどのように捉え、何を行うのか。

自助と公助は重なっているため、一緒に考えるという姿勢が重要である。誰に相談をして、何をしたらよいかわからなくて困っている。困っている人と同じ立場になってほしい。

○ 会長

地域のコミュニティ（団体など）が消滅していくことを市はどう考えているのかという質問と、もっと同じ立場に立って寄り添ってほしいという要望である。

○ 事務局

団体やコミュニティへの加入率が下がっていること、担い手がないことは非常に課題に感じている。それぞれの担当課のみで考えることは限界があるため、先日、担当課を集め、現状の共有や地域全体でできることなどの話

し合いの場を設けた。自治会も加入率が下がり、担い手不足に陥っているという状況を踏まえ、（他課では）今年度より役員の業務のスリム化のため補助金を出す制度を開始した。結果はまだわからないが、効果があれば、他の団体等に対しても活用するなど、横の連携を深めていきたい。

すぐに解決できることではないが、現状を維持しつつ、より活動が盛んになるよう、施策を進めていきたい。また、隣近所の顔を知らないことが根本的に解決すべき問題だと感じているため、そのようなところから始めて、地域団体の活性化に努めていきたい。

○ 委員 C

自治会支援施策について、どうなるかわからないと言われたが、自分の地区では様々な団体の事務のスマート化が進み、とても良い結果が出ている。一方、電子機器等に疎い高齢者の方々に向け、スマホ教室などを行い、大勢の方にご参加いただいた。それにより、情報が素早く出回るようになった。

○ 委員 C

一点質問だが、P10のSDGsの観点について、計画がどの位置づけになっているのか。2030年に向けて折り返しを過ぎ、日本は17の目標の内5つの項目について、目標の達成に向けての努力を要するとされた。

一番遅れているのは「ジェンダー」であり、行政機関が一番遅れている。2つ目は「作る責任、使う責任」であり、大量生産大量廃棄、ゴミの山の問題は解決されていない。3つ目は「気候変動」であり、電気を石炭で作っていることが問題である。4つ目は「海の豊かさ」であり、日本は世界で6番目に海が広いが、汚れている。5つ目は「陸の豊かさ」である。

福祉に関係すると言われている項目は達成できているとされており、特にウェルビーイングは高く評価はされている。その視点から骨子を読むと、今後の少子高齢化についての対応も踏まえ、ほぼ前計画を踏襲しつつ、改善を加えており妥当な計画であると思う。

一つ追加してほしい項目は、ウェルビーイング・幸福度指標である。毎年実施している、デジタル庁の幸せの国勢調査によると愛知県は 38 位、東京都 46 位で、豊かな地域ほど幸福度が低い傾向にあるとみられる。一度、幸福度調査の指標についてもチェックして頂き、今回の計画や達成目標に反映してほしい。実際に幸福度指標を行政目標に取り入れ、群馬県、浜松市などは成果を上げている。現在全国で 200 を超える自治体が幸福度を行政の施策目標として取り入れており、そのあたりも参考にしてほしい。

○ 事務局

ウェルビーイング指標については、今後検討していく。

○ 委員 D

計画の基本的な考え方はすごく良いが、自治会活動がほとんどであり、(様々な団体があるが) 同じメンバーが地域活動をしている。福祉委員会についても、結局、同じ構成員で委員会を増やしても意味がないと考えているため、自分の地区では設立していない。

「共に支え合う、参加と支え合いで築く」とあるが、「今だけ、自分だけ、金だけ」という現代の考え方に変化し、コミュニティは分断されており、それぞれの交流が少なくなっている。

どのコミュニティでも担い手は同じ人であり、また、役員が回ってくるので団体には入らない考えの人もある。その中で、どうやってつなげて支え合っていくのか。例えば子ども会の役員をお母さん・お父さんではなく、おばあちゃん・おじいちゃんが担うなど、縦割りではなく、世代間交流をして横つながりで考える必要があるのではないか。

共通点を見つけ、横のつながりを作っていかないと、コミュニティが消滅していくと思う。施策に載っている内容は全部自治会がやっていることであるため、地域の人意見を聞きながら具体案を作っていくことが必要である。具体的なことが出来るように、実態を踏まえた施策を考えてほしい。

○ 事務局

自治会が地域活動の核となっていると思う。すべてが自治会単位で地域性を持っているのが刈谷市の地域活動であると考えている。昨年度は住民参加型会議を実施しており、意見を頂いている。今後も、地域住民の方の意見を聞きながら、具体的な施策を作っていければと考えている。

○ 会長

自治会の方の意見を聞く機会もあるということか。

○ 事務局

計画期間は5年間であるため、その間に意見を頂く機会を設けたいと考えている。すぐに目標達成ができる内容ではないため、5年後に基本目標が達成できるようにしていきたい。

○ 委員D

一般公募でもいいが、地域で活動をしている人たちの実態を聞き、調査してほしい。

○ 事務局

参考にさせていただく。

○ 委員E

P19の外国人の状況について、外国人の方も刈谷市の一員として共生していくという考えであれば、表紙の絵などに外国人の方も入れた方が、より伝わるのではないか。

○ 事務局

当然、外国人の方も地域住民の一員であるので、考慮していきたい。

○ 委員 A

役員が1年で変わってしまうことや、役員が一生懸命活動しても他がついてこないという難しさがある。そこで、地区を1つ選び、そこで現状把握や意見徴収を行い、モデル地区として進めた方がやりやすいのではないか。

現在、市民協働課におけるまちづくりコーディネーターが地区に入り、自治会の現状を把握し、運営・活動・防災について共に考え、加入率を上げることを取り組まれている。

例えば小垣江地区は1万人以上が住んでおり、同じ地区でも地域によってかなり風土が異なる。一つの自治会としてまとめるのは難しいため、的を絞って問題を吸い上げるというやり方を進めている。そういったことも参考にし、進めていくと良いと思う。

○ 事務局

参考にさせていただく。市民協働課とも連携していきたい。

○ 委員 F

委員Dの意見は同感であるが、様々な立場の人との連携という意味では、南部地区でいえば、地区長も民生委員もボランティア団体の会長もみんなが福祉委員会に入っていて、福祉委員会で横のつながりが出来ている。

一人も取り残さない対応、地域一体型の活動が出来ている。福祉委員会こそが横のつながりをつくるものだと思っている。こういった地区もあるということをご理解いただきたい。

○ 委員 D

(様々な団体の役員が集まる)地区委員会があり、全く同じメンバーで構成される福祉委員会はないのではないかという意見である。

○ 事務局

福祉委員会が地域活動の様々な団体の集まりになっており、福祉分野に関して、障害者や高齢者など誰一人取り残さず、地域のつながりをつくれるかを意識しながら進めている。現状、23 地区内の多くの地区で（福祉委員会）設立されているが、現状を考慮しながら、未設立地区についても、引き続き設置の働きかけを行っていききたい。

○ 会長

福祉委員会ではなく、同じ機能のある委員会が地区社協に入っている、ということか。

○ 事務局

刈谷中部地区は福祉委員会が立ち上がっていない地区のため地区社協には入っていない。

○ 委員 B

新規会員は増えず、既存の会員が減少していくだけという状況で、何のために老人クラブ(いきいきクラブ)をやっているのかと考え直す必要がある。

会員数が増えなくても活動団体や内容については、住民それぞれが幸せであればどんな形でもよく、生きがい・やりがいがある、自分の存在が認められるということがあればよいのではないかと、という考え方に切り替えている。

老人クラブ(いきいきクラブ)の場合は、イベントやサロンなどの集いの場においても、会員以外を対象外となってしまうが、福祉委員会に老人クラブが加わっていることで住民全体が対象となる。

団体の存在意義や目的を改めて考え直さないと消滅は抗えない。コミュニティの考え方を変えないと、やっていけないと思う。

○ 事務局

地域の方の考え方も尊重しながら、行政として施策を進めていききたい。

【その他】

事務局より、本懇話会を踏まえ、引き続き計画素案を作成する旨及び今後のスケジュールについて説明。

○ 会長

ただいまの説明についての意見、質問があるか。

○ 面高委員

10月の日程は決まっていないのか。

○ 事務局

10月の最終週の予定だが、早いうちに通知する。

○ 委員C

28日以降で良いか。

○ 事務局

問題ない。

○ 会長

担い手不足について、団体やコミュニティの目的や機能の見直し、横のつながりが必要という意見があったが、重要なお意見だと感じた。人はつながりがないと孤立し、幸福度は下がる。つながりをつくることは、人が安心して暮らすための土台、ソーシャルキャピタルとなっていく。今の日本の安心安全の社会は、一人一人が少しずつ担って築いてきたものである。それを私たちは忘れてしまいがちである。こういった社会を続けていくためにも、つながりが必要である。

○ 会長

以上で閉会とさせていただきます。